

公表

事業所における自己評価総括表

○事業所名	にじいろキッズらいふ若里東(児童発達支援)		
○保護者評価実施期間	令和6年11月27日		令和6年12月27日
○保護者評価有効回答数	(対象者数)	6名	(回答者数) 6名
○従業者評価実施期間	令和6年12月6日		令和6年12月20日
○従業者評価有効回答数	(対象者数)	4名	(回答者数) 4名
○事業向け自己評価表作成日	令和7年3月21日		

○ 分析結果

	事業所の強み(※) だと思われること ※より強化・充実を図ることが期待されること	工夫していることや意識的にやっている取組等	さらに充実を図るための取組等
1	親子通園で保護者が療育に参加する機会が多いことで、お子さんの成長を直接見たり、感じることができる場面が多い所。 また、療育の意図や身体の成長へのアプローチなどを保護者と支援員で共有して行うことができる所。	・療育の意図や意味を、保護者の方に伝わりやすいよう、部分的に伝えている。また、日々の小さな成長やできた事を話す中で、どこに意味のある成長なのか、紐づけしながら話すようにしている。 ・今している運動や遊びが、身体面や対人面の成長にとって何に良くて、次はどんな成長へ繋げていくかを、お家ででもできるような運動や遊びとして提案をするよう配慮している。	・OTやPT等の専門職との連携を図りながら、お子さんの身体面や対人面の育ちを共有し、保護者の方にお伝えする。 ・活動の変化に合わせ、何を意図しているのか、どこをルーティン化し、お子さん自身の成長へ繋げて行くのかを明確に保護者の方にお伝えする中で、保護者の方も一緒に活動参加しやすい環境を作る。
2	保護者と支援員が密に相談し合える環境であり、日々の相談や対応を共有し合いながら、お子さんの成長に合わせた関りを保護者と一緒に考えることができる所。	・朝/活動中/帰り等、保護者との会話をなるべく行うことで、お子さんの変化や成長、保護者の不安等に気づけるように心がけている。 ・保護者の方が(安心して、心を開いて)話しやすいよう、日頃からお子さんを中心とした会話をしながらも、雑談と言えるような世間話をするこも大切にしている。	・保護者の方が担任へ話しやすくなるよう、笑顔や明るい雰囲気、話しても大丈夫と思えるようなクラス全体の雰囲気を作る。 ・お子さんと積極的に関わることで、様子や成長に合わせた得意なこと/好きなことを表情や仕草から読み取り、保護者にお伝えする/共有していく。

	事業所の弱み(※) だと思われること ※事業所の課題や改善が必要だと思われること	事業所として考えている課題の要因等	改善に向けて必要な取組や工夫が必要な点等
1	限られたスペースのため乳幼児向けの設備・備品等が少ない。	午前と午後で利用児の対象年齢に大差があり、使用している物を共有しにくい為、物を増やすことが難しい。	マットや、カーペット、簡易的な冷暖房器具、オマルなどを使用し、乳幼児に適した環境になるよう、トイレ空間や遊び場等の構造化を行っている。